

営農支援サービス「天晴れ（あっぱれ）」について

「天晴れ」は、人工衛星やドローンから撮影した地表面像をもとに圃場の状況を解析・可視化して、診断レポートを作成する営農支援サービスである。インターネットを通じて利用するクラウド型サービスで、平成29年10月にリリースした。

天晴れの特長

1. 手軽にリモートセンシングを利用

Webを通じて診断を依頼し、パソコンやスマートフォンで診断結果を閲覧できるため、新たな機器導入が不要であり、手軽にリモートセンシングを依頼できる。

2. 多様な解析項目

水稻、小麦、大麦、大豆、牧草を対象に、葉色や水分含量、タンパク含量等の解析が可能。解析項目は今後さらに拡大する予定である。

3. 1,000haより申込み

人工衛星からのリモートセンシングは、最小撮影面積1,000haより申込みができ、以後100ha単位で加算可能。診断レポートは生産者やグループ・団体ごとに小分けすることもできる。該当する撮影面積は、耕地面積のみでなく、診断依頼する圃場全体（農道や畔などを含む）が該当する。

4. 多くの生産者が利用

北海道を中心に導入が進んでおり、本州でも利用者が拡大している。令和2年3月には農業分野での人工衛星リモートセンシング技術の普及に対して、内閣府による「第4回宇宙開発利用大賞」において「農林水産大臣賞」を受賞した。

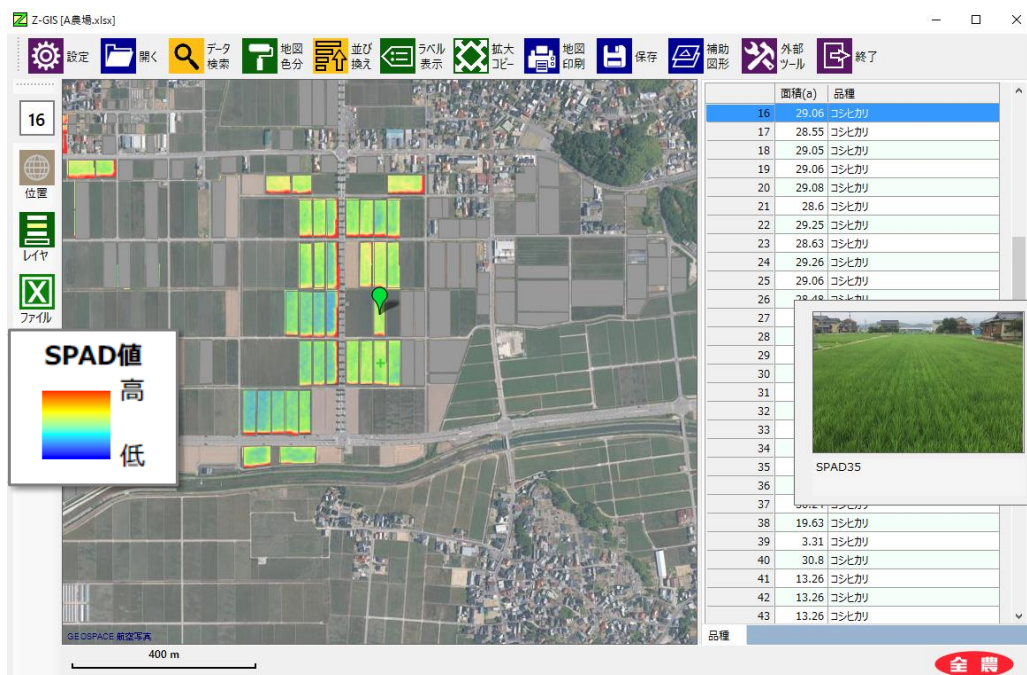


図1. 天晴れの診断結果（Z-GISによって表示）